

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100198		
法人名	社会福祉法人 寿量会		
事業所名	グループホーム 虹の家		
所在地	熊本市南区奥古閑町4296-1		
自己評価作成日	平成29年12月25日	評価結果市町村受理日	平成30年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5		
訪問調査日	平成30年1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者にとって毎日を[笑顔で楽しい役割を持ったメリハリのある生活を通じて頂くように]している。開設当初から[自分で出来る事は自分で]のケアを行っております。機能の低下があっても[自分らしい暮らし]を今も継続しております。又、家の前は通学路です、[朝のあいさつ運動・帰りは下校の見守り]を行い子供達からの笑顔と元気をもらっています。又、認知症であっても地域の住民の一人として、地域行事などに積極的に参加しています。最近の取り組みとして地域の方の家にかけ季節を感じて頂いたり、グループホームの中に地域の方を招いてミニコンサート等のイベントを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域交流を日々の生活に活かす職員の取り組みは、家族・住民・ボランティア・運営推進会議委員の理解と協力を得て、活気あるホーム運営に活かされている。ホームは認知症と住環境に関する有識者グループにより設計されていて、中庭を囲んで居室や共有空間が廊下で繋がっており、共同生活の中での個性を大切にケアの礎となっている。中庭の犬や、自由に入出りができるドアと段差、廊下・居室・教養室・面談室は、職員と家族の創意工夫で設えられ、住む人を和やか、穏やかにする雰囲気を出している。「ゆっくり」「たっぷり」「じっくり」と「出来るのではないか」を大切にケアは、入居者の笑顔と共に実習生などにも有意義な学びとなっている事が感じ取れた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念のもとで時間にとられず、入居者の方と関わることで、その人らしい暮らしを継続でき入居者のペースでゆっくりとした生活ができる様に支援している。	理念・倫理規定を元に、「ゆっくり・たっぷり・じっくり」を大切にケアの実現に向け、年度毎の介護目標が掲げられている。入居者を地域の住民として、近隣・広域にわたる様々な交流を図り、「出来る事」や「出来るのではないか」に視点を置く自立を目指した支援が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家の前が通学の為、子供達の登校・下校を見守ったり、運動会やふれあいの集いに参加している。又、地域の美容室や買い物にも出掛けています。地域での集い・イベントコンサートにも参加し交流を図っています。	地域密着型ホームとしての、地域交流を最優先する方針が共有されている。散歩・犬の散歩・買物などで地域との日常的な交流があり、農作物の差し入れやどんどや・花の開花情報などを得て、地域の人々と一緒に楽しんでいる。食堂には「天明・飽田ホームメモ」が貼られていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご入居の相談や見学をいつでも受け、今、困っておられる事についてグループ全体で考えるようにしています。又、地域のささえりあ天明様からの徘徊者などの情報がある祭には、職員に伝え通勤の際に気がける様にしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回入居者の普段の様子や参加行事・疾病等を資料にまとめ生活の様子を報告しています。“社協だより”や地域のイベントが記載された広報誌を頂き、広報誌を通じてご利用者にも地域の活動を知って頂いています。又、地域の方より行事を伺いご利用者と一緒に外出する様に心がけています。	運営推進会議は、社会福祉協議会・自治会・老人会・民生委員・ボランティア・地域包括支援センター・入居者・家族の出席を得て、情報の交換と共有が図られている。出席者にホームの取り組みへの意見や要望を求めますが、「頑張っているから」と理解が示され、相談を受ける事が多い現状がある。	意見交換・質疑応答では、委員が意見等を出し易いような工夫が望まれる。また、誰がどのような質問・提案等をし、どのように回答や協議がされたのか、意見が運営や入居者へのサービスにどのように反映されているか等の記録はほとんどみられず、会議録の充実が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に介護相談支援委員の方の訪問を受けて、ご利用者の想いや不安を聞いて頂きケアの中に活用しています。行政の取り組みや制度を伺い、情報として取り入れています。	地域包括支援センターからは毎回運営推進会議への出席を得ていて、ホーム運営の実際を見てもらっている。その他、道での挨拶時や電話で、ホームの評判や地域の困り事についての情報を得ながら、迅速に連携を図って解決する協力関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいます。又、身体拘束の勉強会に参加し拘束内容を理解しています。玄関・窓は施錠せずに解放することで圧迫感のない生活で想いを叶えています。	ホームは見通しの良い設計となっており、中庭への数か所のドアやデッキと玄関で外と繋がっている。暗くなってからの戸締りを習慣としていて、車道がすぐ前の玄関にのみ監視カメラが設置されている。入居者一人ひとりの危険な言動が共有され、「睡眠剤を用いない」「センサーマットを使わない」「トイレでの排尿」等の自立支援が目指され、トイレの照明やドア開閉への工夫をして、拘束のないケアが続けられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会をし職員全員で虐待防止ケアを悩まずにその都度、皆で話し合っ解決する職場環境に努めています。又、意見が言いやすい環境づくりにつとめています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての研修に参加した職員からの勉強会をしています。又、ご利用者が成年後見制度を利用されているので内容の理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にしっかり説明を行い納得して頂いております。又、疑問点や不安な事がないかについては、面会時や随時の電話連絡にて確認して頂く様にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者やご家族の希望に関しては、出来る限り対応しています。苦情に繋がらないように想いや希望を叶え、ご家族に安心して頂けるように日頃の生活状況を説明しています。	入居前から「地域や家族と共にケアする」方針が周知され、孫やひ孫の面会も多く、外出・外泊・小旅行などへの家族の協力がある。面会や毎月の手紙、電話で入居者の状況を伝える時を要望・意見を聞く機会としている。今回の家族アンケートからは、ホーム運営への満足度の高さが伺えた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員がご利用者のケアや季節の行事に悩んでいる場合は一緒に考えたりしています。意見の言いやすい環境を作っています。又、話しにくい場合は母体施設の役職者に相談出来る体制をとっています。	定例の会議は行っていないが、日勤者のみで座って話し合う機会が作られている。法人内の情報はメール帳で共有している。管理者と職員の何でも話し易い関係づくりは、協働体制と「報告・連絡・相談」を円滑にしておき、職員面談からも何う事ができた。当日提案のドライブやおやつ作りなど、法人の車や器具を使用しており、母体法人との協力関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境を目指しています。職員各自、勤務体制に無理が無いかを聞き取り希望を叶えています。又、体調を崩した職員が気兼ねなく療養が出来るよう職員全体でフォローしています。ご利用者・ご家族からの感謝の気持ちを伝えたり、ご利用者の想いを伝え職員のやりがいに繋げています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体の職員研修で認知症や感染症・介護・拘束・地域についての学んでいます。出席出来なかった職員については、勉強会の機会を作ったり、普段のケアの中でその都度、対策や方法を話し合い進めています。介護体験が浅い職員に対しては個別に相談や話をする機会を設けて不安な面をフォローしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本市のブロック連絡会議に参加し、同業者との交流の機会を作っています。会議で得た情報を職員に伝え必要と思う時は勉強会を設けて、ケアの悩みや行動障害の対策方法など学んで知識の向上に繋げています。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前にご本人・ご家族と会い情報収集やゲルーフーホームについてご理解して頂く様にしています。又、担当ケアマネより今までご利用されている事業所からご本人の身体状況・精神状態・嗜好・趣味等を情報収集を行い、安心して生活出来る環境作りを準備しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前に家に訪問し生活状況を見せて頂いたり、ホームの見学に来て頂き、実際に使用する部屋や雰囲気を見て頂いています。準備する物やご家族の不安な事や要望を聞きケアに生かせる様に準備しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けてもすぐに入居が困難な為、現在の状況やサービスの利用状況を確認して担当ケアマネと一緒に今後について検討している。又、担当ケアマネがいない場合は居宅支援事業所につなげています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・洗濯たみ【干し】汁物・おやつ作り 食後の片付けを一緒に行う等の役割分担 が来ています。又、ご利用者同士の出来 ない所をお互いに手助けをする関係が出来 ています。一緒に笑い・楽しみ・慰めあつたり と家族のような関係が築けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	何でも職員がするのではなくご家族にも役 割を持って頂き受診・外出【誕生会・法事・食 事】等をお願いしています。又、季節の衣類 交換・部屋の片付けなどをご利用者と一緒 に行って頂いております。又、面会時には ゆっくり出来る環境・時間を作っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までご利用されていた病院・美容室を利用 する等、これまで大切にされてきた環境 が途切れないようにサポートし、その場所で なじみの関係の方とゆっくり話をしたりと、 今までの関係が継続できる支援をしている。	職員の気付きは、入居者の思いとして家族に 伝えていて、墓参りや小旅行・面会・外出・外 泊を通じて馴染みの場所や家族との絆が深 められている。なお、美容室を近くに変更し、 待ち時間などの協力を得て新たな馴染みの 関係づくりが図られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	ご利用者個々の生活を大事にしなが ら、食事やお茶・おやつ等を皆でゆっくりする時間 を作っています。又、食後他の方の食器を 台所まで運んだり、自分達の役割が自然に 出来るように声かけしています。ご利用者同 士で「ありがとう」と感謝の言葉が掛け合う 関係が出来ています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、ご家族と連絡を取りながら身体状 況を確認している。ご家族の希望を把握して 同法人の特別養護老人ホームご入居への 相談・手続きをサポートしています。ご入居 後もご利用者・ご家族が不安にならない様 に面会に行き関係を継続しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	ご利用者の希望は出来る限り叶えるよう にしています。行事への参加も拒否される場 合は無理せずに柔軟に対応しています。困 難な場合はご家族からの情報を聞いてご本 人の想いに沿うように努めています。	出来る事や出来るかもしれない事を視野に 入れながら、無理強いしない自立支援が心 掛けられている。母体法人やホームの行事 予定は、本人の参加の意向を大切にしながら 楽しさを伝えて、入居者が笑顔となる機会 づくりに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで、生活して来られた場所・環境を確認し暮らし方について、ご家族や普段の会話から情報を集めています。ご利用者の興味ある物を準備しご利用者の生活を見守っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者が出来ない事ではなく『出来る事』『出来るのではないか』を視点に職員全員で、ご利用者の事を考えケアプランにいかし、出来る事がいつまでも継続出来るようにご利用者のペースで生活しをして頂く様に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにはご家族は中々参加できないのが現状である。面会時や随時電話等で意向を確認しています。ご利用者の「出来る事」「出来るのではないか」をケアプランに盛り込みご利用者の力を活かし自立に繋げています。	介護計画は3カ月に1回の見直しと、変化がない時は6カ月に1回の作成を原則としている。全身の状態を記入する毎日の経過記録は介護計画のパソコンソフトにリンクされている。計画・排泄や入浴のチェック表・申し送りと引き継ぎノートを用いて、現状に即したケアを継続している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はご利用者の生活の様子が分かる様に「出来た」「出来なかった」事だけではなく、困っている様子やその時の言動や状態がわかるようにし、その日の勤務者で話し合いをし申し送りや連絡ノートで情報の共有を図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設の理念に『その人らしい暮らしの支援を目指します』とあります。ご利用者ご家族のニーズがある事は職員にとって嬉しいことです。ご利用者のニーズを叶えるための方法を職員全員で考え支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容室で時間がかかる場合はお店の方に見守って頂いております。地域の行事などへの外出行事にはボランティアの協力を得ながら暮らしを支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居前のかかりつけ医を継続しています。ご家族の希望で往診「訪問歯科」をしています。受診はご家族・職員とで協力しながら対応しています。受診に関わる事で日頃の様子を説明しています。異常時の早期発見に心がけています。	入居前からのかかりつけ医継続を前提としながら、ホームでの健康管理の実際を説明し、主治医や協力医の連携も伝えられている。主治医と看護職・母体法人の看護師とは日常的に連絡を取り合う関係にあり、24時間オンコール体制下での医療支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者が体調の異常を訴えられない場合が多くあり、バイタルチェックを行い普段かの状態を観察しています。「いつもと違う」と気づいた際にはすぐに主治医に連絡しています。又、夜間は母体の看護師と連携を行い、看護師は24時間体制で急変時に対応出来るようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には普段の生活の様子を医療機関への情報の提供をしています。又、入院中も食事時間に合わせて面会に行き食事面のフォローをしています。頻回に合う事で状態の把握もでき医師や看護師・ご家族との連携も図れ退院後の生活がスムーズに運べる様にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時の段階で、ご家族には医療体制・重度化した場合の説明をし「施設なのか・病院なのか」を確認しています。重度化した際には主治医よりご家族に状態を説明して頂いております。母体の看護師や同法人に相談しご家族共にご利用者の事を考えています。	入居時に重度化や終末期におけるホームの方針を説明し、看取りの場などへの同意を得ている。状態の変化に応じて主治医の説明があり、家族の質問に答えて、再度意向の確認が行われ、最終的方針が共有されている。「顔見知りの傍が一番安心」として、家族・母体と連携し、その人らしい終末期となるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法や予想できない急変【誤嚥・止血方法・骨折・火傷】等の応急処置方法について母体での勉強会に参加している。参加出来なかった職員には資料を見て伝えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーを設置し安心出来る環境を整備しています。又、夜間帯・昼間問わず火災・自然災害を想定しての避難訓練や防災についての勉強会を行っています。近隣の方には訪問した際に協力をお願いをしています。又、非常通報装置の設置で隣接する特別養護老人ホームやケアハウスに避難できるように協力体制が整っています。	車道を挟んで立地する母体法人の自営消防団と協力体制が組まれている。予測される災害の一つとして内海からの高波があり、近くのケアハウスの2階が避難場所になっている。尚一層の緊急時を想定した避難場所として、より近くの鉄筋コンクリート造りの2階にお願いする交渉予定があり、今後の取り組みに期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である事を心がけ、尊厳を持って言葉かけや対応等をプライドを損なわない様に、ご利用者の気持ちをそのまま受け入れる様にしています。出来る事がいつまでも継続出来る様につとめています。ご利用者の自立を尊重した関わりをしています。又、ご利用者ののプライバシーを守る為に排泄や入浴は個別に対応しています。	敬語でのコミュニケーションを全てよしとするのではなく、入居者一人ひとりの気持ちに寄り添う言葉かけが行われている。「ゆっくり」「たっぷり」「じっくり」のケア方針のもと、排泄や入浴時など、誰もが等しく望むプライバシー保護に配慮した支援が続けられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活の中で入浴・外出時の洋服の準備を一緒に行い、自分で選んで頂く等自分で決める場面を多く作っています。又、希望に対しては出来る限り叶えるようにしています。自分で伝えられない時はじっくり関わりご家族に協力を得て想いを叶えるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の中で食事片付け・洗濯物干したたみ・縫い物等を手伝う方、部屋でのんびりする方出来る限り一人一人のペースを守る支援を心がけています。行事やイベントの際には職員のペースにならない様に職員配置を多くして対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容室を利用してご本人の希望の髪型にしてもらったり、洗面台に櫛や化粧水を準備して自分でセット出来る環境を作っています。又、化粧・マニキュアも喜んで頂いております。ご家族より外出・イベント時には洋服を持参して頂いており、おしゃれを楽しんで頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	汁物・おやつ等を自分達で作っております。準備や片付け等は職員と一緒にしています。又、自分達で作った野菜や近所から頂いた新鮮な野菜で一品作っております。又、梅干し・漬け物・干し柿等、季節を感じて頂いております。	必要な食量を美味しく食べる事が日々の健康管理に繋がるとして、母体法人施設で調理した食事を運び、ホームで配食している。主食、汁物、おやつはホームで調理して、頂き物で副菜が追加されている。地域から頂いた米粉でちまきづくりも楽しまれている。評価日にも、職員・入居者・ボランティアが声をかけ合い調理や洗い物をして、一緒に食事する様子がみられた。使用後のランチ用マットは、洗濯して廊下のコーナーに乾されていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体の管理士が栄養バランスを考えた献立になっています。水分摂取についてはチェック表で確認しています。又、体調が悪く摂取が繋がらない時は「ヨーグルト・ゼリー・牛乳」等飲みやすいのを準備しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけの方・見守りの方・介護の必要な方と個々の力に応じてケアを行っています。口臭もなく食事摂取も良好である。ケアの際に義歯の状態を把握し洗い残しを確認しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の力に応じてトイレでの排泄を行っています。自分でお腹のマッサージを声かけたり、水を流して排泄を促したりしています。個々の排泄パターンを把握しおむつに頼らないトイレでの気持ちよい排泄が出来る様に支援しています。	全居室にトイレと洗面台が備え付けられ、使い慣れた所で人目を気にしない排泄支援となっている。排泄パターンとそれに伴う一人ひとりの言動は共有され、照明やドアの開閉、排泄用品の収納などに工夫した自立支援となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分管理や牛乳・ヨーグルト・果物や線維の多い食材を使った食べ物を工夫しています。又、運動にも心がけています。腹圧がかかりやすい姿勢【座位】での排泄を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日お風呂を準備しています。2日～3日おきの入浴を目安にしているが、希望があれば入浴日でなくても叶えています。又、檜風呂・季節に合わせて菖蒲湯・あじさい湯・ゆず湯・温泉めぐりのイベント風呂を楽しんで頂いております。	デイサービス利用者の入浴時間に配慮しながら、午前と午後の入浴時間となっている。浴室はユニットバスと檜風呂があり、入居者の状態に応じて使用されている。冬場は暖房器具とシャワーの湯の掛け流しで浴室を温め、ヒートショックの予防が行われている。使用後は窓を開けて自然換気をして、臭いのない清潔保持が図られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、自分の部屋でゆっくりされる方は見守り、自分で上手に休息を訴えられない方には身体の状態を把握して部屋で短時間のゆっくり休息の時間を作り個々の状態に応じたケアを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容についてはファイルを作り内容の把握をしています。内服の管理は職員が行い、与薬前には名前を確認し誤薬の無いようにしています。袋を渡すと人で飲まれる方・袋を開け手渡す方個々に対応し飲まれたかの確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・洗濯たみ【干し】汁物・おやつ作り食後の片付けを一緒に行う等の役割分担が出来ています。又職員はご利用者の頑張り「ありがとうございます。助かります」と感謝の言葉をかけ生活の張りに繋がるようにしています。又、誕生会・季節の行事を通して生活の中での楽しみを作っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のよい日には散歩・お地藏様参り等の外出の機会を作り季節を感じてもらったり気分転換をしています。外出行事のお花見・紅葉見学等はボランティア様の協力して頂き出掛けています。ご家族との外出も年1回食事会を行っています。ご家族と外出・病院受診を定期的に行って頂いております。	地域との交流やホームの年間行事、随時の外出支援があり、職員・家族・ボランティアと一緒に楽しむ機会が多く作られている。天候や入居者の状態を見て、買い物や近くの神社・川尻・銭塘などに出かけ、昔ながらの風情が楽しまれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からのお金の預かりはしておりません。現状は出掛ける時に前に頂いたり、後日に頂いたりしています。買い物も「洋服が買いたい」と出掛けられますが、それで安心され買い物はされないが満足されています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・知人・親類からの電話は少なく自らの電話も難しい状態です。暑中がき・年賀状等は準備し職員と一緒に書いてご家族に送っています。字を書くのが苦手な方にはスタンプを押したりして関わって頂いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者と台所に立っても混雑しないスペースが確保できています。リビングにはカレンダーボードに日付・曜日が分かる写真を飾ったりしています。居間はコタツを準備しゆっくり横になり皆さんがくつろげる様になっています。室温や換気に心がけています。	中庭に面した廊下やサンルームには、音楽・読書・手芸・お茶などを楽しむコーナーがある。それぞれに色々なテーブル・椅子・ベンチがあり、手作りのクッションが置かれている。廊下に面した茶室の琴や着物、コーナーに置かれた観葉植物や和ダンス、色々な置物は、廊下を通るだけでも穏やかな気分になる事が伺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室の間にセミパブリックスペースを設けてあり、気のあった同士でゆっくりした会話を楽しまれています。その際には職員が見守りをしています。それぞれのスペースには季節の飾り物を置き自然と集まりやすい工夫をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力で使い慣れた家具【タンス・コタツ・テレビ】等を使用しています。畳やベッドに寝転んだり、新聞を読んだりテレビをゆっくり見たりされている場面が見られ居心地のよく過ごして頂けるように工夫しています。	それぞれの居室に外の風景が眺められる窓があり、閉塞感のない明るい採光が図られている。床材の畳や木目のフローリングなどで居室の雰囲気が異なっており、家族の協力を得ながら家具やベッドが配置され、好みに配慮した居心地の良さが伺われた。入口のガラスのドアの一部に布を貼り、プライバシー保護と安否確認への工夫が図られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の入り口に柄の入った布を貼り部屋が分かれようとしています。部屋の中にトイレ・洗面台を設置して場所が分かる様になっています。精神的・認知面での混乱がある場合は、夜間電気を点けて場所が分かる様に工夫しています。色々な場面で自立に向けて考えています。		